（廿二日夕刊）

磐城新聞

休刊　大祭第一第三日曜
定價　壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢
廣告料（雜報欄行五十錢　場所指定二十錢增）
發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

青年に與ふ（二）

星製藥磐城配給所　駒木根忠三

今や生存競爭の激甚、所謂、優勝劣敗の現象は益々其の激越なるを加へて來た是れで單に社會に生存する丈でも、大分骨が折れて來た、況やこの競爭裡に立つて見事勝利を博し、光榮ある成功　月桂冠を戴かうとする者に於ておやである。

それをして遂に全からしめるもの、即ち努力と修養と奮鬪である。

然るに現今この社會の青年の情態を觀ずるに、この大切なる修養と努力といふことを忘れ、徒らに一攫千金的の夢を貪り、成功のみを得んと焦慮し煩悶し居るものが多い實に慨歎是久しゆうするものである。

世の中といふものは不公平なようで割合に公平なものである。

で、あるからしてかような我儘な不眞面な心をおこさずに、眞面目に正直に修養に努力したならば成功の彼岸に達することの出來るといふことは、予輩の斷じて疑はない所、人よ悉皆認めせである。

もとより、生活難成功難といふことは無いではないが、然しこれを怖れる位ならば成功にも志ざさない方がよいし、無寧生れて來ない方がよかつたのである

然し乍ら一旦人間と生れた以上は、徒らに醉生夢死するのみでは鳥や獸となんら選ぶところがないではない乎。實に長歎息を洩らさざるを得んやである。

で、あるから、自分としては出來得る丈、修養に努力して小にしては一身一家の榮達を計り、これを大にして以て國家社會になんらかの貢献をし、所謂、生がひのある人間になりたいと思つてゐるのである。

成るかどうか成られるかどうか、それは運命の神樣に委かして、修養に努力した丈決して損にはなるまいと思ふのである。

それで成功といつたから大臣になれ大將になれ博士になれ、ブルジョアになれといふのではない、大工に適するものは大工になるがよい、左官に適するものは左官になるがよい、鍛冶屋に向くものは鍛冶屋、商人に適するものは商人になるがよい。

職業に高下がない、たゞその採るところ掌るところの人物如何によつて高下がつくのである。

なにゝなつてもよろしいたゞその道の達人となり模範的人物となるのが肝要である、それが軈ての日國家の中樞人物になるの基礎となるのである。

俺は忙しい勉強の暇が無い、修養の餘地が無いと云つてるものゝか[illegible]、然し乍らこの世に生[illegible]忙しい位結構なることは[illegible]い。

聖人も云つてゐるのではない乎「小人閑居爲不善」と

暇でゐれば良いことをしないといふことは、あながち小人ばかりではないと思ふ、大人とてもよいことはしないのである。

人が誘惑に落ち入つたりだ落したりするのは他にも原因があるであらうが、畢竟、暇であるから惡魔につけてまれるのである、誘惑に落ち入るのである、墮落するのである

予は多忙謳歌主義を執つてゐる、多忙中に生存するものは精神が強確で活潑で何事も熱心である

他の悠々閑々たる輩と比較すると注意熱心の度合が非常に違ふようである。

かりに農民にたとへてみれば一反歩の田を耕やすには、のらくらものは三日かゝる、普通の者で二日、一生懸命にやる人は一日半で耕やしてしまふ[illegible]

毎日の仕事に於てすら右のような差がある、況や一年を通じたる數に於てをやである。

それで俺は、貧乏で學校へ行けない修養の暇がないといふものであるが、實に是れお氣毒の次第である。

シユミルレル曰く「世界は大學校なり、困苦は良師友なり」實にこの言適切ではない乎。

なにも何々學校へ行かねば勉強が出來ないといふのでもあるまい、この通信機關の發達する今日、コレスポンデンス、スクールを利用すれば、中學校卒業はたろか、ユニバシテイ卒業の學力を得ることが出來るのである。

で、あるからして汽車馬車電車の中も教場である、寄席劇場も道を步くも、又野も山も教場であるこのあらゆる場所あらゆる時機を利用活用して修養に努力したならば、ユニバシテイのプロフエッサーより亨ける講義的教養よりも、より超越せるカルチユアを得ることが出來る可、而して成功の彼岸に達するといふことは予輩の斷じて毫も疑はないところである。

青年諸君よ、層一層の努力奮鬪を望む、紙數にも限りあることなれば今回はこれにて擱筆し、筆硯新たにして諸君にまみゆる考へである。

（完）

明日の吉凶

二月二十三日　舊曆二月三日

▲一白　上下の意見取捨てに迷ふ日舊來の業は盛りに向ふ▲二黑　滯りなく物事すら〳〵と進む日但し口舌注意▲三碧　一時的の巨利を夢みるは凶常業は順調進む▲四緑　來れる好運を取逃がさぬ樣油斷なく勵むべし▲五黄　奮起勉勵すべし引つ込み思案を守る時に[illegible]ず▲六白　位置高くし心の落付かざるは飲食を注意▲七赤　焦り心の生ずる日む進には十分注意すべし▲八白　願望成就する日人より持込まるゝ話利益化し▲九紫　運氣定まらず吉凶交々至るの日內に守るが安全

講談

闇に閃く男達

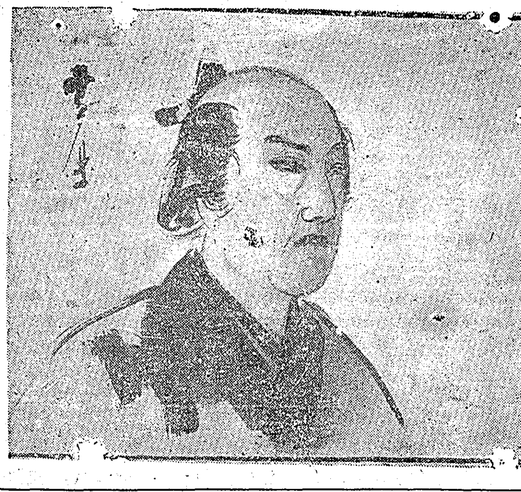
(21)

高田　涙川作
尾崎　雪鷹畫

木更津藤兵衛

新吉は一膝のり出した

「サア、親分聞いておくんなさい、實は斯樣々々の次第　私ちアそばで見てゐても面目ない夢ばかり、友造の野郎がおかしな夢をしたばかりに、親分の顏にまで泥をぬる樣なことゝなりました、私ちも最初は友の野郎をさつちめやうと思ひましたが、この客人が年に似合わぬ不敵さに、口先ばかりかほんとうに度胸があるのが試めさんものとわざと控へてをりやした、此奴は客人にも話し兎に角私ちから詫はしましたが親分からもどうかよくお斷りをしてたくんなさい」



木更津藤兵衛は立上つた

「友造ッ……」

「ヘエ……」

友造が次の室から首を突き出す出合頭を、藤兵衛は手にせる銀の雲繞はりの七八十目もあらうといふきせるで友造の脳天を一つ打すゑた

「痛いッ……」

友造が非鳴を上げるやつを、何をッと云ひながら、又もや打下ろさんとする所を金五郎は早くも藤兵衛の二の腕を押へた。

「親分待つておくんなさいこれには何か樣子のあるに違ひない全く友造ばかりが惡いともいわれない、全体私に金をとられてしまへばアノばくちが崩れてしまふそれぢやア親分にすまないと惡い事とは知りながらもと〳〵親分思ひでした夢であらう、どうか話のつくまではこの折檻は私に預てたくんなさい」

金五郎は調停に入つた

「イヤ有難うございます、とも角客人にお預けいたしませう、友造ッ……手前は本當によてへやつだ、テラを取るのはこつちの稼業だが欺かしてとるのは稼業ちやねへ、幸ひこの客人か腕ができていなさつたからいゝものゝ腕に覺えのねへものだつたら手前らは手込みにしてもその金をとつたであらう、たいはぎ強盜にもまさつたやつだ、お客人と話のつくまで手前ヱの命は預けてたいてやらう」

藤兵衛の怒りはナカ〳〵靜らなかつた

「客人どうもすまない事をいたしました、どうか御勘辨なすつてたくんなさい」

友造はたゞ謝罪一方である

「やかましい、默つてろッ時に客人、あの友造といふ野郎はきつと私の方で折檻をいたしやす、どうか今度の事は內濟にしてたくんなさい、もしこの事が仲間中にでも聞ねちやア、この藤兵衛は世間へ顏出しができねへことになりやす」

藤兵衛は恐縮するより他はなかつたのである。

「ナーニ、そんなことは決して心配しなさるな、つまり子供の分際であんな事をしなさりやこんな事もできなかつたのです」

金五郎はおとなしく出る

「イヤそうちやねへ、わつちの稼業は商賣人同志ちやアいつたり來たりで稼業にはならねね、矢張り客人同手でせつて行くのだから、稼業の爲には大事な客人、それをだましたのどうしたのといつちやア商賣冥利につきますよ。しかし客人[illegible]う見た處がた前さんまだ年若の方だがどういふわけでどこまでお出でなさる」

藤兵衛は尋ねた

「ヘイ、よく聞ておくんなすつた、實は少々身に望みがあり江戸へ參らうと思ひます」

「フム……江戸にはお身寄りでもありなさるので……

「イヤ親類緣者とありませんたらあてなしに江戸へ行きその上で先々のことを考へやうと思つてをります」

「フム、そりやア、どういふわけがあるか知らねへが惡い了見だ誰でも江戸といやアする膳で待つてゐる樣に思つてゐなさるが、何がして、生馬の目でもぬがうといふ怖ろしい所だ、わつちもこの大森では木更津藤兵衛といやア少しは人に知られたもの、けんくわをするのも何かの緣だ、及ばずながら出來る事ならば力にもなりませう、云ふて惡いことなれば藤兵衛の首にかけても口外しません、江戸へ行かれるわけを一つ聞しておくんなさい」

藤衛は誠意をこめて聞いたのである。

廣告

平町田町通り
磐城病院
電話一一四番

平町南町
大和田醫院
電話一七〇番

深キ經驗ト
正シキ學理ヲ基トシテ
最新ノ設備ト
優秀ナル技巧ニ依リ
多産廉賣
益々聲價漲ル
萬年瓦
仙臺高等工業學校試驗證明
鐵道省
福島縣廳
栃木縣廳
青森縣廳
指定品
福島縣四倉町
萬年瓦工業株式會社
電話三八番

內科
小兒科
皮膚科
花柳科
平町舊城跡（城山）
青沼醫院
醫學士　青沼淡夫
電話四〇三番

ヒゲタ醬油
宮內省御用達
銚子醬油株式會社
特約店
平町田町
廣瀬支店
電話五四番

日東のラジオ
最新高級のラジオ製造販賣
並に部分品提供
當分の間奉仕的破格値段
三球セット取付共
A　百貳拾五圓
B　百圓
C　七拾圓
御用命次第店員をお伺ひ致させ懇切御相談に應じます。
平町白銀町
日東商會
電話四二八番

健康
活躍
勝利

勝利、その輝かしき名は、活躍する人にのみ許されます。

活躍、その勇ましき名は健康なる人にのみ許されます。

◇あの赤の罐◇
ホシ胃腸藥

健康を得るには先づ胃腸を健全にしなければなりません。

胃腸を健全にするために、ホシ胃腸藥をお用ひなさい。

東京大崎
星製藥株式會社

休む暇もなしに 後始末の多忙
滯つた行政事務に 平署員惱まさる

選擧も一段落を告げ政友派の大勝に歸したが野黨側では何彼につけて**干渉壓迫**を叫んでゐる、選擧に際しては野黨はほね方が甚だしく何等問題にならぬものにまで種々の惡宣傳をしてゐる、各署では選擧中殊に投票前に有權者で事件の嫌疑者を取り調べたために同署に引致でもしたものなら民政黨側ではそれ干渉壓迫だとほえる有樣であるが事件に左程影響せぬ場合には投票前に引致取り調を**延期して**ゐたやうな有樣なのでいよいよ選擧も終了したので延期してゐた事件の關係者を召喚することになつたが選擧取締のために數日來不眠不休で活動した警察官は一時の休みもなくこれ等一般事件のために又活動をせねばならぬことになつた、それに選擧取り締のために行政方面の事務取り扱ひが澁滯したやうな有樣なので選擧終了してもこれらの事務の整理に一骨折らねばならず縣下の警察官は此の激務振りに泣言をならべてゐる

激增して來た 少年の就職
平紹介所多忙

平町職業紹介所では目下石城郡内小學校と連絡をとりさかんに少年の職業紹介につとめてゐるが各小學校から本日まで就職希望を申し出たものは東京の松坂屋呉服店の店員希望十名を筆頭に東京方面に二十五名平町を始め地方の商店員希望官公署の給仕志望者二十四名計四十九名で今後續々申し込みがあるものと豫想され係員は全幅の紹介斡旋をとり大いに努め約六十名前年に比べ非常な形だが求人申込みははるかに超過し求人求職共に驚く程の增加を示してゐた

地方の商店會社から二十七名東京方面から二十五名そる

殊に目に付たのは 戸別訪問運動
檢擧はこれからだ 警察當局の談

政戰は去る二十日を以て全く閉ぢられたが期間が一ヶ月に限定されてあつたゞけに運動頗る**猛烈を極**めた結果選擧違反は非常に多く縣高等課は檢事局と打ち合せ之が檢擧に忙殺されてゐるが、右につき警察當局では「二十日現在で違反件數は二十餘件に上つてゐるが、これ等はことごとく檢擧し着々調査中であるが、比較的買收事件の多かつたことは普選の首途として**面白から**ぬ現象である而して未だ從來の戰術から脱する能はず戸別訪問の多かつたことは否まれぬ事實である、干渉そんなことは絶對にないよ、警察官は選擧には何處までも公平嚴正に執行せしむその實務がめるが、ね」云々と語つてゐた

平商生見學
磐城銀行と平局

平町平商業學校本年度卒業生五十名は二十日高野教諭外一名引率のもとに午前七時同町磐城銀行に至り見學し樓上で同行支配人佐々木龍若氏から各種の講演を聽取し次いで平郵便局を見學した

平消防組で 新型撒水車
白井氏が寄附

平消防組では昨年度から市内の散水自動車を運轉實施し頗る良好な成績を收めた結果愈々新式シボレー撒水用自動車を購入することゝなり二千二百餘圓を投じ廿一日に着荷したが平署で車体檢査の上近く運轉を開始す筈である因に購入費は消防組のみの經濟で不足を生じたので白井一郎氏の寄附を仰ぎ購入したものである

四倉セメント 剩員陶汰
近く馘首發表

石城郡四倉町磐城セメント株式會社では東京分工場の都合を理由として過般同工場倉庫係六名を馘首したが伏聞するにこの外に役員十二三名と職工五十名を解雇する方針で恰も選擧日に近づいてゐるのでこの際一時に多數從業員を解雇しては勞働爭議でも勃發してはと憂慮のあまり六名だけの發表に止めたが選擧終了後右馘首斷行をなすものと見られ多數勞働者並びに役員は悔々としてゐる

郡南の棄權
一割二分に達す

第三區植田警察署管内名簿確定現在の有權者總數は八千六百なりしが選擧期日現在の總數は九十八の死亡失格を出して八千五百五となり千八十七の棄權ありて投票總數は七千四百八十にて一割二分弱の棄權率を示した

衆議院議員選擧投票各町村別分野一覽表

備考　△有權者數は選擧當日現在の實數　△二月廿二日午前二時確定せる數

町村名	有權數	投票數	棄權	無効	有効票	木村	比佐	松本	氏家	佐川	山田
平	四、〇六一	三、七〇九	三五〇	三一	三、六七八	一、五五九	一、六六九	一五七	一七八	九〇	二五
飯野	六一七	五七五	五二	一	五七四	三三九	二〇三	一九	五	六	二
鹿島	三六四	三二〇	四二	二	三一八	一四一	一六〇	五	四	七	〇
江名	一、〇一二	八八三	一二四	一五	八六八	五二九	二九八	四	三七	五	〇
豊間	六八五	五三四	一五一	五	五二九	二八一	一五九	一三	三三	四三	〇
高久	四九二	四五二	四〇	一	四五一	二一七	一七四	二一	〇	三九	〇
夏井	五〇四	四五〇	五四	四	四四六	二一二	二二六	〇	三	四	一
神谷	六七三	六一二	六一	五	六〇八	二九七	一九九	七五	二六	一〇	一
草野	八四八	七八〇	六八	二	七七八	五二四	一七六	七〇	四	四	〇
大浦	八八五	八二三	六二	三	八一一	六七六	一一八	九	五	三	〇
四倉	一、三八二	一、二四七	一三五	一八	一、二二九	八九三	三〇三	四	一一	一四	四
大野	七九五	七二〇	七五	三七	六七八	四三五	二三五	三	二	三	〇
平窪	六二五	五六二	六三	一二	五五〇	三〇五	二〇五	二三	八	九	〇
赤井	一、三七五	一、二二一	一五四	一八	一、二〇九	四二三	七二八	二二	一〇	二五	一
小川	八二〇	七四五	七五	六	七三九	四四二	二七〇	五	九	一二	一
川前	五九一	四七六	一一五	九	四六七	一四〇	二九〇	一二	一九	六	〇
三阪	七六五	六〇八	一五七	一〇	五九八	二〇八	三六〇	一	一三	一五	一
永戸	七四五	六一五	一三〇	一五	五九六	一九九	三八九	〇	六	四	二
好間	二、二〇〇	一、九〇六	二九四	二三	一、八八〇	五一六	九〇五	八一	五三	三一二	一三
内郷	四、四二〇	三、七九五	六二五	七八	三、七一九	七四八	二、二八七	一九四	七九	三九一	二〇
湯本	二、〇七四	一、九一八	一五六	三二	一、八八五	三七六	一、四一七	三八	一四	三九	一
磐崎	一、七二三	一、四六〇	二六三	一九	一、四四一	二九八	九〇八	一二三	四三	六七	二
上遠野	九一五	七九八	一一七	七	七九六	三七八	三八四	一二	四	一三	五
入遠野	八五二	七二四	一二八	四	七五三	二二七	四五九	二五	二	三九	一
田人	九八七	七六一	一六六	四	七二三	二四八	四二九	二二	一〇	一二	二
川部	八三〇	六九一	一三九	三	六九六	三三一	三〇七	四四	四	一〇	〇
勿來	一、四四〇	一、二四一	一九九	一二	一、二二三	四五四	五八三	一四六	八	三二	〇
錦	六七四	六二六	四八	四	六〇八	三四九	二四二	五	〇	一二	〇
山田	六一七	五六三	五四	一	五七三	三七九	一六三	一〇	〇	一七	一
植田	一、〇三三	九六六	六七	五	九七二	四九一	四五七	一五	四	五	〇
渡邊	三九九	三五七	四二	四	三五八	一八五	一五四	一四	三	二	〇
泉	七五八	六八九	六九	三	六九四	三三三	三二四	四	二〇	一〇	三
玉川	四五一	四〇三	四八	三	三九七	一二九	二三二	二三	〇	一一	二
小名濱	一、四四二	一、二五五	一八七	二三	一、二三二	七六六	三八五	一三	二八	一八	二二
石城郡計	三八、〇五六	三三、四八八	四、五六八	四〇二	三三、〇八六	一四、一二九	一五、八〇六	一、一三九	六二七	一、二七九	一〇六
双葉郡計											
相馬郡計											
總合計											

中等校の入學者に 年齡の制限
新入期を迎へて 磐中校が大多忙

磐城中學校では新入學期を迎へる準備に忙殺されてゐるが從來中學校の入學については別段年齡に制限はなく適齡を過ぎてから中學へ入學しやうが妻子をもつてから**專門學校**へ入らうか一向おかまひなしで、かへつてこれ等篤學者のため特別の便宜を與へる學校もあるが最近專門學校以上は別として中等程度の學校では非常に年の多い者を入學させるため弊害が伴ふとあつて各中學校の大多數は入學者の年齡に制限を設け大体二年は滿十六歲、三年は滿十七歲、四年は滿十八歲位の程度で入學を許可することになり、新學年から實施するといふ右につき「中學にはあまり大してないが實業學校になると年齡の差が多く徴兵の關係は勿論のこと兎角年長學生が年**少學生に**對して猥談や惰學を教へこんだり、教師排斥の黑幕となつて煽動したり、種々な弊害があるので困まることは時々學校當局者から聞かされることで年齡にある制限を設けることは結構と思ふ特殊な晩學者には晩學校がいくらもあるから……」と語つた

同名異人が投票
内郷村の別人投票に 平署で取調中

石城郡内郷村字金阪本久敬は二十日無資格で投票した事發覺平署に引致取調を受けたが同村同字に同姓同名者あり事故あつて投票にゆかれなかつたのだ自分にも選擧權あるに拘らず役場の手落で脫落したものと思ひ前記入場劵を貰ひ受け投票したものと判明した

落盤で壓死

内郷村大字宮の澤居住安積郡喜久田村生れ磐城炭礦坑夫大比良多門（三四）は去る廿日午前三時頃高坂坑右坑四八半昇附近に入坑作業中偶然落盤し逃げ遲れたため下敷となり無慘な壓死を遂げた屍体は七海部長檢視の上妻クラに引渡した

川前は二割
棄權の多い村

第三區管内で小野新町署に編入されてゐる石城郡川前村の名簿確定當時有權者總數は五百九十七で選擧期日現在の總數は五百九十一となり死亡無格六を示してゐるが投票の結果は棄權百十五にて投票總數四百七十六となり棄權率二割を示してゐた

公賣公告

福島縣石城郡赤井村大字赤井字笹目田八番地
滯納者　川瀨幸治

一、物件
明治四十年一月九日福島縣採掘登錄第八九號
福島縣石城郡赤井村他内石炭鑛區
拾萬壹千五百四十坪採掘鑛業權

右國稅滯納ニ付前記財產昭和三年三月三日平稅務署ニ於テ入札ヲ以テ公賣ニ付ス買受望人ハ當署ニ就テ詳細承合ノ上入札ヲナスヘシ

右公告ス

昭和三年二月廿二日
平稅務署長

木挽中治が 病中に轉げで 爐中で燒死

三阪村大字差鹽字大久保居住千葉縣香取郡伊能村生れ木挽職佐藤中治（六五）は全村山林内、小屋に内縁の妻戸村かね（五五）と程近く別居したが二十日午前二時頃爐中へ陷り無慘な燒死を遂げてゐたのを發見して駐在所へ屆け出でた中治は癩の持病ある爲めん氣、暮したいとかねと別居してゐたもので癩の爲め火中に陷つたものであらうと

本社前に集ふ 喜憂の人々
發表の昨今日

普選最初の總選擧の開票日たる今二十二日は各候補者の事務所は勿論街道の人々はいづれも最初の總選擧だけに開票の結果に興味をもち與黨勝つか野黨勝つか口々に言葉を交してゐるがそのさばかりの評判にあるひは不安と喜びとを胸にひそめて本社前得票發表場に押かけ不安のうちにかすかな望みをつないでゐる人々普選ならでは見られない光景である

内科、小兒科　入院應需
花柳病科
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平局五〇七番

外科、耳鼻咽喉科
内科、泌尿器科
X光線科
外科
赤心堂病院
平町字田町
電話四七五

常磐第一ノ大炭礦タル
磐城炭礦ノ石炭
ツ石炭と「コークス」の特長
一、目方ノ正確
二、品質ノ優良
三、配達ノ迅速
ドーシテアンナ良イ品ヲ、ソンナニ安ク賣レルカト驚カレ一度使ヘバ永久ニ御使ヒ下サルノガ當店石炭ト「コークス」ノ特長デス
石炭は正十貫目一俵金六十五錢也
平驛前
ツ阿部石炭商店
電話一二三七番

◎徒弟入用
徒弟契約ニ付テハ年明キニ際シ有利ニ御相談申上候
金牌一等賞受領（數回）
磐城國平町
草野染工場
電話三四八番

のんですぐきく
クノー散
神經痛、頭痛、ロイマチス、齒痛、肩のコリ、其他疼痛時服用すれば奏効的確なり
論より證據直ちに試みられよ
定價　二十錢、三十錢、五十錢、一圓
平町各藥店ニテ特約販賣致します